

支部のトピックス(東北支部)

リクルートパンフレット（東北版）の作成

東北支部技術部会では、数年前より各大学に出向いて、建設コンサルタント業界の説明と道路のルート検討演習などの講義を実施してきました。

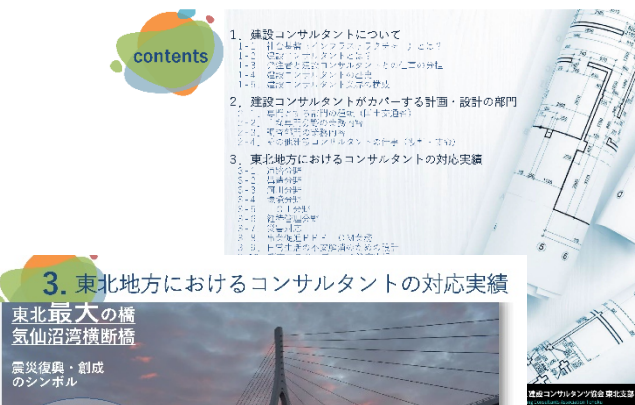
そこで感じたことは「地域の社会貢献となる仕事に魅力を感じる学生が多い」、その反面我々が想像している以上に「学生の皆さんが建設コンサルタントのことを知らない」ということでした。

活動を続けた大学では、年々建設コンサルタント志望の学生数が増加しており、インターンの希望も増えてきたところです。

しかしながら、まだそのような活動が出来ていない大学や高専等は多々あり、将来の担い手確保のために、「建設コンサルタントの仕事を広く知って頂く」、「東北地方で社会貢献していきたいと考える若手技術者への情報提供」が必要と考え、東北版リクルートパンフレットを作成しました。

パンフレットの内容としては、建設業界における建設コンサルタントの役割や様々な業務内容、東北地方における技術分野毎の業務実績紹介、技術者（若手～ベテラン）の声など、出来る限り目で見て理解できるような内容にしています。

コロナ禍終息後には、多くの学生に業界について理解して頂くように、講習会も含め広報活動を進めて行きたいと考えています。



contents

- 建設コンサルタントについて
 - 1-1 建設コンサルタントとは何か
 - 1-2 建設コンサルタントの役割
 - 1-3 建設コンサルタントの業務内容
 - 1-4 建設コンサルタントの資格
 - 1-5 建設コンサルタントの会社
- 建設コンサルタントがカバーする計画・設計の部門
 - 2-1 都市計画・国土利用
 - 2-2 交通計画・道路設計
 - 2-3 土木設計・建設管理
 - 2-4 環境設計・評価
 - 2-5 調査・測量
- 東北地方におけるコンサルタントの対応実績
 - 3-1 仙台市
 - 3-2 仙台市
 - 3-3 仙台市
 - 3-4 仙台市
 - 3-5 仙台市
 - 3-6 仙台市
 - 3-7 仙台市
 - 3-8 仙台市
 - 3-9 仙台市
 - 3-10 仙台市



▲大学でのプレゼン・演習の様子

3. 東北地方におけるコンサルタントの対応実績

東北最大の橋
気仙沼湾横断橋

震災復興・創成のシンボル

2020年度開通予定
L=680m（海上部）
3径間連続鋼斜張橋

架橋位置：宮城

3-5. ICT分野

中山間地域における自動運転サービス

秋田県秋田郡小阿仁村で自動運転サービスに関する実証実験から社会実装までのコンサルティング業務を実施しております。

- 自動運転インフラ設計・施工・管理
自動運転車両の走行ルートに建設する、電磁誘導線に関する設計・施工・管理が主な業務です。
- 自動運転車両の運行・保守点検
地元のドライバーや受付の方が車両を安全に運行できるように教育・指導を行うことが主な業務です。
- 自動運転サービスの運営管理
利用者からの予約受付・料金徴収や、サービス維持のための収入確保方策の検討、地元主体で運営管理を行うための提案、検証が主な業務です。

地元主体で運営することができる新たな交通システムの導入による中山間地域における安全安心な暮らしの創出は、建設コンサルタントの重要な仕事です。

5. 建設コンサルタントへの誘い

5-4. 建設コンサルタント技術者の声

(1) 若手技術者

- 設計分野担当
 - 自分の出したアイデアで高い仕事ができるところにやりがいを感じます。
 - もっと勉強して経験を積んでいき、いつか自分が計画・設計した構造物が完成するのが楽しみです。
- 計画分野担当
 - 自分の仕事で検討した内容が、最終的に国民の安心・安全に貢献できると思うと、国の社会資本整備に仕事として関われることに、大きな責任とやりがいを感じます。
- 海外担当
 - 海外業務は相手国の環境政策や開発方針に関係する仕事もできるため、国レベルの仕事に携われるというやりがいがあります。

▲パンフレット抜粋

支部のトピックス(関東支部)

建設コンサルタントの出前講座「ようこそ！ドボクの世界へ（第2段）」

■はじめに

関東支部広報委員会では、数年前から「出前講座ワーキンググループ」を結成し、学校での出前講座を実施しています。昨年に続き、栃木県立今市工業高校で「地域に開かれた学校づくり」を目指すため、感染対策を講じながら建築工学科の一年生（40名）を対象に独自に実施しました。

■出前講座の概要

① 学習目標

- ・ 建築と土木の違いを理解する。
※2年生進級時コース選択（建築／土木）にも役立てる。
- ・ 建設コンサルタントの役割を知る。
- ・ 土木施設を活用した地域活性化の取組みを学び、日光の魅力を再発見する。

② 実施内容（ダムを例にして）

- ・ 日光市内や国内の著名な建築物や土木構造物を例にとって、特徴や役割等を説明しました。また、日光市内にある代表的な4つのダムを題材に形式や供用年数、観光のポイント等を調べてとりまとめ、発表する体験学習を行いました。
- ・ ダムを例にとって、建設コンサルタントの役割（調査・計画・設計）や自治体職員・ゼネコン等との役割分担を説明しました。
- ・ 地元・日光市内で活躍するネイチャーガイドを招き、日光のダムを活用したインフラツーリズムの事例を通じて、自然と融合した“日光の土木施設の魅力”を再発見しました。

③ 参加者の感想

- ・ 参加した学生からは「建設コンサルタントのことは知らなかったが、今日の講座を聞いて存在を身近に感じられた」、「土木に関する理解が深まり進路選択に活用できるので、今日の講座を聞いて良かった」、「自分たちが普段生活出来ているのは、陰で働いているたくさんの人の支えがあるのだということを実感できた」等の意見がありました。
- ・ 先生方からは「昨年の講座後、土木コースを選択する生徒が増えたので、今年もその効果を期待したい」、「土木と建築の違いが明確になり、生徒にとってコース選択の良い判断材料となる」等の意見がありました。
- ・ 終了後の学生アンケートの結果は、「建築と土木の違いが分かった（100%）」、「この講座が進路の参考になりそう（89%）」、「建設コンサルタントの役割について分かった（89%）」等でした。

■おわりに

昨年実施したグループ学習を今年はコロナ対策で取り入れられなかった。昨年は各自調べた意見をグループごとにまとめ、発表する過程を生徒が楽しんでいたように見受けられたので、次年度はグループ学習を復活させ、委員と対話をしながら進行するスタイルに戻るのが良いと感じました。

